

活動報告

第8回多言語競演レシテーション大会

英米学科 エレノア・ロビンソン山口
 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 佐藤 久美子
 国際関係学科 東 弘子

「多言語競演レシテーション大会」は、本学が独立行政法人化した2008年に、高等言語教育研究所主催の行事として開催され、その後、本学における外国語教育活動の成果を披露する場の一つとして、毎年大学祭期間中に開かれている。

本年度も、大学祭二日目の10月31日（土）にS201教室で開催された。この催しは、学生が本学で学習中の外国語（留学生の場合は日本語）で文学作品などの一部を暗唱し、学習年数により2部に分かれてパフォーマンスを競い合い、聴衆による投票、および審査委員会による協議で優秀者が選ばれるものである。今年度は、第1部（学習1年目の履修者）に5組、第2部（学習2年目以上の履修者）に6組、計11組が参加した。当日は、午前10時半に吉池孝一外国語学部長の挨拶で幕が開き、開会直前に行われたくじ引きにより以下の順でレシテーションが披露された。

【第1部】

1. カタルーニャ語： 上野 瑞穂（ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻2年）
 演題： Discurs de Pau Casals a l'ONU (1971)
 （パウ・カザルス、国連平和賞受賞時の国連での演説(1971)）
2. スペイン語： 岡本 奈美佳（ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻1年）
 演題： Pablo Parellada "El idioma castellano"
 （カスティージャ語 ～言葉は正しく使いましょう～）
3. 中国語： 金 雪晶、松田 亮輔、渡邊 香穂（中国学科1年）
 演題： 東郭先生与狼（東郭先生と狼）
4. 日本手話： 佐藤 遥、ハシム・アナスタシヤ・ウランドリ（国際関係学科3年）
 演題： 手話漫才「大学とろう者」
5. フランス語： 王 静雪、深谷 有美、古橋 葵、星 美月
 （ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻1年）
 演題： Le Petit Prince （星の王子さま）

【第2部】

1. フランス語： 大島 なつみ、小澤 茉季、尾関 萌衣、花井 万里奈
 （ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻2年）
 演題： La langue de chez nous（私たちのところの言葉）
2. ドイツ語： 水野 星来（ヨーロッパ学科 ドイツ語圏専攻2年）
 演題： Aus „Ansprache des Bundespräsidenten zum 40. Jahrestag der Beendigung des Zweiten Weltkriegs“（ヴァイズゼッカー大統領「第2次世界大戦終戦40周年演説」から）

3. 英語： 森平 和貴（国際関係学科 1 年）
岡本 慧、曾我 佳帆、吉村 美弥（同 2 年）
演題： The last lecture（最後の講義）
4. 英語： 岩田 清佳、河田 愛梨、島袋 ライサミカ（英米学科 1 年）
演題： The House That Jack Built（ジャックの建てた家）
5. ポルトガル語： 小原 芽惟（ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻 2 年）
演題： Garota de Ipanema（イパネマの娘）
6. 英語： 奥村 春美（英米学科 2 年）
演題： Talking about Buddhism in English（仏教について英語で話そう）

【自由演目】

ポルトガル語： 小原 芽惟（ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻 2 年）
演題： Vamos sentir o Brasil cantando a Bossa Nova!
（ボサノバを歌ってブラジルを感じよう！）

以上の発表に引き続き、投票が行われた。第 1 部で 71 名、第 2 部で 70 名の投票があり、以下のとおり最優秀賞と優秀賞が決定した。

【受賞者】

- | | |
|-------------|--|
| 第 1 部 ■最優秀賞 | スペイン語：岡本 奈美佳（スペイン語圏専攻 1 年） |
| ■優秀賞 | 日本手話：佐藤 遥、ハシム・アナスタシヤ・ウランダリ
（国際関係学科 3 年） |
| 第 2 部 ■最優秀賞 | 英語：岩田 清佳、河田 愛梨、島袋 ライサミカ（英米学科 1 年） |
| ■優秀賞 | ポルトガル語：小原 芽惟（スペイン語圏専攻 2 年） |

さらに、審査委員による協議の結果、以下のとおり特別賞が決定した。

- | | |
|-------|---|
| ■学長賞 | 英語：森平 和貴（国際関係学科 1 年）
岡本 慧、曾我 佳帆、吉村 美弥（同 2 年） |
| ■学部長賞 | 中国語：金 雪晶、松田 亮輔、渡邊 香穂（中国学科 1 年） |

結果発表と表彰のあと、鎌倉やよい副学長から講評をいただき、今大会もつつがなく幕を閉じた。以下、受賞した皆さんの喜びの声を紹介する。

第1部

■最優秀賞 スペイン語

岡本 奈美佳 (スペイン語圏専攻1年)

レシテーション大会に向けて練習を始めたばかりの頃は、暗唱することで頭がいっぱいになってしまい「人に伝える」ことが全く出来ていませんでした。そんな時、いきなりスペイン語で練習するのではなく最初に日本語の意味、どんな気持ちで話すのかを理解してやると良いというアドバイスをいただき、徐々に抑揚をつけ、ジェスチャーを交えて話せるようになりました。その結果、すばらしい賞をいただけて本当に嬉しかったです。この経験は私にとってとても良い経験になっただけでなく自信にもなりました。今回の経験で学んだことを活かして今後もスペイン語の勉強に励んでいきたいと思います。



第1部

■優秀賞 日本手話

佐藤 遥、ハシム・アナスタシャ・ウランダリ (国際関係学科3年)



今回は、「手話漫才：ろう者と大学生」で優秀賞をいただく事ができ、大変嬉しく思っています。

最初は授業で学んだ日本手話の楽しさや魅力を皆に伝えたい、とレシテーションの参加を決意しましたが、大会に向けた練習を通し、日本手話の楽しさに改めて気づき、ますます日本手話を勉強したいと思いました。(ハシム)

今年度、初めて愛知県立大学で、日本手話の講義が開講されましたが、今大会を通してまたひとつ、日本手話の存在を校内にアピールできたのではないかと、思います。音のない世界で生きる言葉、国内にも言語の多様性があることを、今一度多くの人々に気づいてもらえたのなら、嬉しいです。(佐藤)

第2部

■最優秀賞 英語

岩田 清佳、河田 愛梨、島袋 ライスミカ（英米学科 1年）

私たち全員にとって、この大会への参加は掛け替えのない経験となりました。たまたま集まった三人。練習もまともにできてない状態での参加ですから、不安を拭うくらい全力で楽しみました。賞なんて気にしない。そしたら、まさかの！最優秀賞。オムそば食べたままの状態です。臨んだ授賞式。恥ずかしいことこの上ない。そんな私たちがこのような素晴らしい賞を受賞することができたのも、ひとえに宮浦先生のおかげです。



どんなことをやっても、彼女は私たちを信じ、支えてくれました。最優秀賞は、私のものではありません。一緒に参加した二人と、そして宮浦先生の努力の成果です。私はこんな仲間を持ったことに、新たな師に出会えたことに深く感謝しています。ありがとう！

第2部

■優秀賞 ポルトガル語

小原 芽惟（スペイン語圏専攻2年）



去年に引き続き、今回もポルトガル語での発表の機会をいただき、嬉しいかぎりです。

今年 2015 年は、日本・ブラジル間において国交が結ばれてから 120 年を迎える記念すべき年です。そこで今回のレシテーションでは、二国間の国交 120 周年について簡単に述べ、続いてブラジルのポピュラー音楽であるボサノバについて紹介しました。

中でも「イパネマの娘」は、世界でも非常に多くカバーされ、愛されている名曲であり、その魅力を多くの人に伝えたいと思いながら心をこめて暗誦しました。第二部では後半にその歌詞を暗誦し、その後自由部門で実際に歌うことで、会場に来ていただいた方々に少しでもこの曲を知ってもらえたのでは、と思います。

とにかく本当に楽しい経験となりました。指導していただいた先生をはじめ、応援してくれた友達や多くの方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

■学長賞 第2部 英語

森平 和貴（国際関係学科1年）、岡本 慧、曾我 佳帆、吉村 美弥（同2年）



今回の大会で私は英語の表現や発音にとどまらず多くのことを学びました。これからもこの経験を生かし精進していきたいと考えています。来年の一年生も多くこの素晴らしい機会に参加してくれたら良いと思います。

（森平）

今回の大会において正しい英語の発音に気付くことができて、良かったと思います。合間をぬって皆で練習した過程が楽しくて、参加してよかったなと思いました。（曾我）

今回のレシテーション大会で客観的に「英語の発音の難点」や「英語の伝えかた」について見つめ直すことができました。この経験を今後の英語発表に活かし、これからも精進していきたいと思います。（岡本）

時間の少ない中、秋田先生の熱心な指導の下何度も繰り返し練習をし、クラスの前や外でも練習をしました。結果はもちろん練習も今では本当にいい思い出です。（吉村）

■学部長賞 第1部 中国語

金 雪晶、松田 亮輔、渡邊 香穂（中国学科1年）

私は、中国語の発音を良くしたいと思い、このレシテーション大会に参加しました。3人で合わせて練習する時間があまりなく、本番までとても不安でしたが、最後には中国語を発音することが楽しいと心から思っ発表することができました。（渡邊）

私はこのレシテーションで自分の中国語の発音を向上させたいという目標がありました。先生方に勘定の入れ方、分の区切りなどを教わり、普段ならできない経験をさせていただきました。そして3人で楽しく発表ができて良かったです。（金）



私は発表で物怖じしないような精神力を身につけようとこのレシテーションに参加しました。何度も何度も練習するうちに慣れて発表当日はあまり緊張せず、楽しく演技することができました。先生方、先輩方、本当にありがとうございました。（松田）

【授賞式後の記念撮影】



今大会も多くの参加者と参観者がいらっしやり、熱気あふれる大会となった。今後も多くの学生が参加し、レシテーション大会がより盛んになることを願う。

今回も大会資料の準備や受け付け、司会進行、記録映像の撮影などの作業に学生スタッフの協力があり、円滑な大会運営に資するところがあった。ここにお名前を記して感謝の意を表したい。

森 美貴 (大学院国際文化研究科)
岸 稚佳 (大学院情報科学研究科)
上手 結有希 (国際関係学科)
三輪 涼香 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)

最後に、本大会開催に向けご協力、ご支援をくださった方々にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。

多言語競演レシテーション大会実施要領の概要

- 暗唱者は、今年度、本学の外国語の授業（全学共通・外国語科目および外国語学部専門科目）を受講し、その言語を学習している学生とする。
- 第1部と第2部に分けて出場者を募る。第1部には当該言語を学習1年目で当該言語圏に3ヶ月以上滞在したことがない学生が、第2部には学習2年目以上の学生が参加できる。英語と日本語は第2部のみの募集とする。第2部についてはレシテーション、ショートドラマなどから選べる。ただし、歌唱や楽器演奏等は除く。
- 歌唱などを伴う演目の上演を希望する場合は、昨年度から導入された『自由演目』にエントリーすること。
- 第1部と第2部、それぞれ1言語1件を担当教員が選抜する。ただし、英語は3～4件とする。規定時間内で2名以上が一つの作品を演じる場合、1件として参加できる。
- 1件につき暗唱時間は3分（移動、準備、片付けを含め4分）とする。その間、関連する写真等を投影する。
- 聴衆には暗唱内容の和訳と背景等を書いた印刷物を配布する。
- 暗唱度、表現力、映像・印刷物の準備度、仲間力等を総合的に評価し、審査する。
（以上、本年度の出場希望者募集用ポスター等に基づく）